



2026年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年4月30日

上場会社名 株式会社ギックス 上場取引所 東
 コード番号 9219 URL <https://www.gixo.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役CEO (氏名) 網野 知博
 問合せ先責任者 (役職名) 広報・IR部長 (氏名) 岩田 夏希 TEL 03 (3452) 1221
 配当支払開始予定日 -
 決算補足説明資料作成の有無：有
 決算説明会開催の有無：有（機関投資家及びアナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2026年6月期第3四半期の連結業績（2025年7月1日～2026年3月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年6月期第3四半期	2,114	17.7	79	—	60	—	17	—
2025年6月期第3四半期	1,796	10.3	△110	—	△110	—	△99	—

(注) 包括利益 2026年6月期第3四半期 17百万円 (—%) 2025年6月期第3四半期 △99百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年6月期第3四半期	3.11	3.10
2025年6月期第3四半期	△17.77	—

(注) 2025年6月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在するものの1株当たり四半期純損失のため、記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年6月期第3四半期	2,767	1,736	60.7
2025年6月期	2,110	1,816	83.7

(参考) 自己資本 2026年6月期第3四半期 1,678百万円 2025年6月期 1,767百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年6月期	—	26.50	—	27.00	53.50
2026年6月期	—	26.50	—		
2026年6月期（予想）				27.00	53.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年6月期の連結業績予想（2025年7月1日～2026年6月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,700	12.6	△45	—	△69	—	△80	—	△14.31
	～2,800	～16.7	～35	—	～11	—	～△25	—	～△4.47

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：有
新規 1社 (社名) 株式会社メイズ

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2026年6月期3Q	5,596,775株	2025年6月期	5,584,831株
② 期末自己株式数	2026年6月期3Q	177株	2025年6月期	177株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2026年6月期3Q	5,590,666株	2025年6月期3Q	5,583,309株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	5
四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(セグメント情報等の注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(継続企業の前提に関する注記)	9
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9
(追加情報)	9

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、賃上げをはじめとした雇用・所得環境の改善を背景に回復傾向がみられました。一方で、原材料価格・エネルギーコストの高騰や物価上昇等の影響に加え、米国の政策動向等により、景気の先行きは不透明な状況が続いています。そのような中、各企業のデジタルトランスフォーメーション(DX)の推進や、生成AI等の技術革新・一般社会への普及等もあり、ビッグデータの活用やAIアルゴリズム技術等の社会実装を目指す機運がますます高まっております。

このような環境の下、当社グループは「あらゆる判断を、Data-Informed(データインフォームド)に。」をパーパスとして掲げ、「すべての人がデータという武器を用いて論理的に考え、合理的に判断する社会」の実現を目指しています。当社グループは、業界リーディングカンパニーに対し、データに基づく判断・意思決定(Data-Informed Decision-Making)支援を行っています。データインフォームドにおいては、人間が思考する際に、一般的なデータ分析のアウトプットに加え、生成AI等から得られた情報群を「考えるための材料」として適切に提供することにより、人間の思考が拡張されていくことが理想の姿です。

当社グループは、創業以来、長年にわたって培ってきたデータ分析にまつわるノウハウやアセット群を活用すると共に、昨今、注目されている生成AI等の新たな情報処理技術を取り入れて、クライアント企業の「データ“も”用いた判断」を核とした業務変革を推進し、事業成長・業績改善および競争力強化を実現します。その上で、当社グループは主たる事業領域を「顧客理解に基づく判断のDI化」と定め(なお、顧客とは、クライアント企業にとっての顧客(エンドユーザー、会員等)を指します)、「顧客理解No.1カンパニーを目指す」をビジョンに掲げています。「顧客理解といえば、ギックス」と想起してもらえるような存在を目指しており、ビジョン達成に向け、エンドユーザーの心理・価値観を行動データ分析によって理解し、それに基づいた最適な提案および実行支援を行うことでクライアント企業の事業成長支援を行います。また、提供するサービスの特徴から大きく「Business Innovation」と「System Innovation」に分類しており、この2つの領域を単独もしくは組み合わせ提供してまいります。

当第3四半期連結累計期間においては、2025年10月、分散する既存システムを対話型AIで包括的に統合する新サービス「AI wrapping(AIラッピング)」の提供を開始しました。また、2025年8月、業務提携先であるBeyondge株式会社と共同で、大企業におけるAI・デジタル人材の内製化を包括的に支援する新サービス「DIGITAL BOOST」の提供を開始し、12月には、大企業における連続M&Aをデータやテクノロジーを活用しながら包括的に支援する新サービス「M&A BOOST」の提供を開始しました。加えて、トヨタモビリティパーツ株式会社と共同開発した「AI整備見積りシステム」の特許を共同で取得したほか、本年3月には、データ基盤上の複雑なデータをビジネス用語へ変換し、定義を統一することで、生成AI活用やデータを用いた現場の意思決定を支援するインフラとなる「セマンティックレイヤー」の構築支援の本格提供を開始しました。「ゲーミフィケーション×データ」による習慣化促進プラットフォーム「マイグル(Mygru)」においては、引き続き数多くのキャンペーンに導入されています。吉本興業グループの株式会社FANYが実施する「吉本新喜劇座員総選挙2025」、佐藤健LINE公式アカウントで実施された「Netflixシリーズ『グラスハート』デジタルスタンプラリー」、株式会社SMエンタテインメントに所属する韓国発の6人組ボーイズグループ「RIIZE」のデジタルスタンプラリー等、注力しているエンタメ領域における実績を着実に積み上げています。さらに、当社はLINEミニアプリを活用した展開を強化しており、LINEヤフー株式会社が提供する新サービスである「LINEタッチ」によるLINEミニアプリ起動に対応する等、機能拡張も引き続き推進しています。加えて、M&Aにも引き続き注力しており、2025年10月1日より株式会社メイズが連結子会社となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は2,114,072千円(前年同期比17.7%増)、当第3四半期連結累計期間より目標として定めているコア営業利益(当社グループの事業活動により生み出される利益であり、営業利益にのれん償却費とM&A関連費用を加えたもの)は134,639千円(前年同期は92,041千円の損失)となりました。また、営業利益は79,684千円(前年同期は110,099千円の損失)、経常利益は60,531千円(前年同期は110,641千円の損失)、親会社株主に帰属する四半期純利益は17,373千円(前年同期は99,195千円の損失)となりました。

また、セグメントごとの経営成績は、次のとおりです。

①Data-Informed事業

売上高は2,082,104千円、営業利益は80,978千円となりました。

②その他の事業(介護事業等)

売上高は31,968千円、営業損失は1,293千円となりました。

なお、その他の事業(介護事業等)に関しては、中間連結会計期間より開始しております。

(2) 当四半期の財政状態の概況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は2,155,472千円となり、前連結会計年度末に比べ282,445千円増加いたしました。これは、現金及び預金が3,915千円減少した一方で、売掛金及び契約資産が295,542千円増加したこと等によるものであります。固定資産は611,585千円となり、前連結会計年度末に比べ373,687千円増加いたしました。これは、のれんが317,091千円、投資その他の資産が57,915千円増加したこと等によるものであります。

この結果、総資産は、2,767,058千円となり、前連結会計年度末に比べ656,132千円増加いたしました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は561,141千円となり、前連結会計年度末に比べ311,025千円増加いたしました。これは、その他流動負債が122,131千円、1年内返済予定の長期借入金が102,000千円増加したこと等によるものであります。固定負債は469,851千円となり、前連結会計年度末に比べ425,683千円増加いたしました。これは、長期借入金が367,812千円増加したこと等によるものであります。

この結果、負債合計は、1,030,993千円となり、前連結会計年度末に比べ736,709千円増加いたしました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は1,736,064千円となり、前連結会計年度末に比べ80,576千円減少いたしました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益17,373千円を計上した一方で、剰余金の配当を116,090千円実施したこと等によるものであります。

この結果、自己資本比率は60.7%（前連結会計年度末は83.7%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は、当第3四半期連結累計期間の実績等を踏まえ、通期連結業績予想を修正いたしました。詳細は、2026年4月30日に公表しました「通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

また、配当につきましては、2024年4月に発表しました配当方針に基づき、26.5円の間配当を実施しました。期末配当につきましては、2025年6月期と同額の27.0円、年間53.5円の配当を予定しています。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2026年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,184,841	1,180,925
売掛金及び契約資産	638,008	933,550
その他	50,177	40,996
流動資産合計	1,873,027	2,155,472
固定資産		
有形固定資産	78,188	76,911
無形固定資産		
のれん	—	317,091
その他	175	132
無形固定資産合計	175	317,224
投資その他の資産	159,534	217,449
固定資産合計	237,898	611,585
資産合計	2,110,925	2,767,058
負債の部		
流動負債		
1年内返済予定の長期借入金	—	102,000
未払法人税等	4,653	64,309
賞与引当金	—	28,260
受注損失引当金	1,021	—
その他	244,440	366,572
流動負債合計	250,116	561,141
固定負債		
長期借入金	—	367,812
資産除去債務	44,168	47,717
退職給付引当金	—	45,685
役員退職慰労引当金	—	8,637
固定負債合計	44,168	469,851
負債合計	294,284	1,030,993
純資産の部		
株主資本		
資本金	287,760	292,867
資本剰余金	1,160,086	1,165,193
利益剰余金	320,147	221,229
自己株式	△292	△292
株主資本合計	1,767,702	1,678,997
新株予約権	48,938	57,067
純資産合計	1,816,640	1,736,064
負債純資産合計	2,110,925	2,767,058

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年7月1日 至 2025年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年7月1日 至 2026年3月31日)
売上高	1,796,917	2,114,072
売上原価	1,289,532	1,349,810
売上総利益	507,384	764,262
販売費及び一般管理費	617,484	684,577
営業利益又は営業損失(△)	△110,099	79,684
営業外収益		
受取利息	802	2,764
雑収入	216	1,862
営業外収益合計	1,019	4,627
営業外費用		
支払利息	206	6,162
支払手数料	—	10,200
新株予約権発行費	—	6,281
固定資産除却損	0	0
雑損失	1,354	1,136
営業外費用合計	1,561	23,780
経常利益又は経常損失(△)	△110,641	60,531
特別利益		
関係会社株式売却益	—	4,692
特別利益合計	—	4,692
特別損失		
減損損失	22,083	—
特別損失合計	22,083	—
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△132,724	65,223
法人税、住民税及び事業税	2,965	58,952
法人税等調整額	△36,493	△11,101
法人税等合計	△33,528	47,850
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△99,195	17,373
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△99,195	17,373

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年7月1日 至 2025年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年7月1日 至 2026年3月31日)
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	△99,195	17,373
その他の包括利益		
その他の包括利益合計	—	—
四半期包括利益	△99,195	17,373
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△99,195	17,373
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

前第3四半期連結累計期間(自2024年7月1日至2025年3月31日)

当社グループは、Data-Informed事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間(自2025年7月1日至2026年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		その他 (注)	合計
	Data-Informed	計		
売上高				
外部顧客への売上高	2,082,104	2,082,104	31,968	2,114,072
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	—
計	2,082,104	2,082,104	31,968	2,114,072
セグメント利益又は損失 (△)	80,978	80,978	△1,293	79,684

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、介護事業及び旅行事業を含んでおります。なお、2026年1月1日付で介護事業を売却しております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する情報

当社グループは、前連結会計年度までData-Informed事業の単一セグメントでしたが、株式会社メイズを連結の範囲に含めたことに伴い、第2四半期連結会計期間より、「Data-Informed事業」及び「その他」のセグメントに変更いたしました。なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、当第3四半期連結会計期間より追加されたことから、開示を行っておりません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「Data-Informed」セグメントにおいて、株式会社メイズの全株式を取得したことにより、のれんを計上しております。当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては、317,091千円であります。なお、取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第3四半期連結累計期間(自 2024年7月1日 至 2025年3月31日)

1 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2024年8月23日 臨時取締役会	普通株式	57,872	27.00	2024年6月30日	2024年9月10日	利益剰余金

(注) 当社筆頭株主である当社代表取締役CEO網野知博、当社代表取締役COO花谷慎太郎、及び当社取締役田中耕比古の3名は、期末配当請求権(剰余金の配当決議により配当財産の額が確定する前のもの)を事前に放棄いたしました。このため放棄した金額(92,826千円)については、配当金の総額より除いております。

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2025年1月30日 臨時取締役会	普通株式	56,881	26.50	2024年12月31日	2025年3月28日	利益剰余金

(注) 当社筆頭株主である当社代表取締役CEO網野知博、当社代表取締役COO花谷慎太郎、及び当社上級執行役員田中耕比古の3名は、中間配当請求権(剰余金の配当決議により配当財産の額が確定する前のもの)を事前に放棄いたしました。このため放棄した金額(91,107千円)については、配当金の総額より除いております。

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2025年7月1日 至 2026年3月31日)

1 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2025年8月22日 臨時取締役会	普通株式	57,959	27.00	2025年6月30日	2025年9月9日	利益剰余金

(注) 当社筆頭株主である当社代表取締役CEO網野知博、当社代表取締役COO花谷慎太郎、及び当社上級執行役員田中耕比古の3名は、期末配当請求権(剰余金の配当決議により配当財産の額が確定する前のもの)を事前に放棄いたしました。このため放棄した金額(92,826千円)については、配当金の総額より除いております。

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2026年1月30日 臨時取締役会	普通株式	58,130	26.50	2025年12月31日	2026年3月27日	利益剰余金

(注) 当社筆頭株主である当社代表取締役CEO網野知博、当社代表取締役COO花谷慎太郎、及び当社上級執行役員田中耕比古の3名は、中間配当請求権(剰余金の配当決議により配当財産の額が確定する前のもの)を事前に放棄いたしました。このため放棄した金額(90,179千円)については、配当金の総額より除いております。

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年7月1日 至 2025年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年7月1日 至 2026年3月31日)
減価償却費	7,976千円	11,889千円
のれんの償却額	2,916	16,689

(追加情報)

(財務制限条項)

当社は、2025年9月30日付で、株式会社みずほ銀行との間で「金銭消費貸借契約」を締結しております。

この契約には下記の財務制限条項が付されております。これに抵触した場合は、本契約上の全ての債務について期限の利益を喪失する可能性があります。

- (1) 2026年6月期決算を初回とし、以降各年度の決算期の末日における連結貸借対照表及び貸借対照表の純資産の部の金額を、直前の決算期末日における連結貸借対照表及び貸借対照表の純資産の部の金額の75%以上に維持すること。
- (2) 各年度の決算期における連結損益計算書及び損益計算書の経常損益の額が、2025年6月期を初回とし、以降の決算期につき2期連続で損失とならないようにすること。

当該契約に基づく借入金残高は459,000千円であります。